

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（1298））

2. 日 時：平成30年9月28日 13時30分～19時00分

3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

植木主任安全審査官、津金主任安全審査官、正岡主任安全審査官、

宇田川原子力規制専門職、堀野技術参与、山浦技術参与

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 副室長 他29名

東北電力株式会社：原子力部（原子力設備） 担当 他2名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 機器耐震技術グループ 副長

他2名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 担当 他1名

北陸電力株式会社：志賀原子力発電所 保守部 保守計画課 担当

中国電力株式会社：電源事業本部（原子力品質保証） 担当係長

電源開発株式会社：原子力技術部 品質保証室 担当 他3名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震性に関する説明書、強度に関する説明書及び津波への配慮に関する説明書について説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

【耐震性に関する説明書について】

<地震応答解析における原子炉建屋の重大事故時等の高温による影響>

- SA時環境考慮の地震応答解析モデルに適用する解析条件について、設定の考え方、各条件の根拠、出典元を整理して提示すること。
- 大型機器地震応答解析モデルの中で、原子炉本体の基礎及びダイヤフラム・フロア以外でコンクリートを使用している部分（例えば、原子炉遮蔽）について、解析モデル上のコンクリート剛性の考慮の有無の観点からの影響を整理して提示すること。
- 地震応答解析結果を踏まえた影響検討対象設備の抽出について、応答比率の詳細を整理して提示すること。

<原子炉格納容器の耐震計算書に係る補足説明資料>

- 原子炉格納容器の地震時のスロッシングに対する考え方について、スロッシングによる影響評価で用いる基準地震動S_s全8波を包絡した波と個別の波による評価内容の違いを明確に整理して提示すること。

（3）日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ V-1-1-2-2-1 耐津波設計の基本方針
- ・ V-1-1-2-2-2 基準津波の概要
- ・ V-1-1-2-2-4 入力津波による津波防護対象設備への影響評価
- ・ 日本原子力発電株式会社 東海第二発電所 本文 原子炉冷却系統施設（蒸気タービンを除く。）の基本設計方針 抜粋資料
- ・ V-2-10-2-5-10 海水ポンプ室ケーブル点検口浸水防止蓋の耐震性についての計算書
- ・ V-3-別添3-2-4-10 海水ポンプ室ケーブル点検口浸水防止蓋の強度計算書
- ・ 東海第二発電所 工事計画に係る説明資料（V-1-1-2-2 津波への配慮に関する説明書）
- ・ 工事計画に係る補足説明資料 耐震性に関する説明書のうち 補足-340-2【耐震評価対象の網羅性, 既工認との手法の相違点の整理について】
- ・ 工認における試験・解析の業務の流れについて
- ・ 防潮堤（鋼製防護壁）の鋼材（SM520B 相当）について
- ・ 取水構造物の横断面モデル及び縦断面モデルの応答加速度比較について
- ・ V-1-1-2-2-3 入力津波の設定
- ・ V-2-10-2-4 構内排水路逆流防止設備の耐震性についての計算書
- ・ V-3-別添3-2-3 構内排水路逆流防止設備の強度計算書
- ・ V-3-別添3-2-6 貫通部止水処置の強度計算書
- ・ V-1-1-2-2-5 津波防護に関する施設の設計方針
- ・ 日本原子力発電株式会社 東海第二発電所 本文 浸水防護施設の基本設計方針 抜粋資料
- ・ 建物・構築物の地震応答解析についての補足説明資料 補足-400-6【地震応答解析における原子炉建屋の重大事故等時の高温による影響】
- ・ V-2-9-2-9 原子炉格納容器配管貫通部の耐震性についての計算書
- ・ V-3-9-1-4-3 電気配線貫通部の強度計算書
- ・ 補足-340-25 原子炉格納容器の耐震計算書に係る補足説明資料